

のちに養父となる斎藤紀一経営の浅草医院は、後継者となるべき男子に恵まれず、将来を考え養子にする優秀な少年を探していました。

茂吉は明治二十九年（一八九六）八月、斎藤家の後継ぎとして医学を学ぶために上京、開成中学校に編入学し、のちに婿養子となり守谷茂吉から斎藤茂吉へと名字が変わります。

しかし、茂吉は中学校に通うころ、周田の影響からよく文芸雑誌を読み、生涯尊敬した幸田露伴、森鷗外の文学と出会います。

特に露伴の用いたことばなどは、のちにみずから作歌に取り入れるなど、強い影響を受けました。また、短歌にも関心を示し、やがて正岡子規の作品に傾倒するようになります。

かぞふれば明治二十九年われ十五歳  
父三十六歳父斯く若し

『歌集』ともしび』



大学時代兄たちと（明治38年頃）左より長兄広吉、茂吉（23歳）、次兄富太郎